

中学校特別支援学級におけるキャリア発達を促す授業に関する一考察

～自己を見つめ、語り合いを通し、自己理解・人間関係形成・キャリアプランニング能力 を育む授業実践～

井上 美由紀 ・ 若松 昭彦*

1. はじめに

広島大学附属東雲中学校（以下、本校と略記）では、平成30年度より研究主題を「『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を育むための学びを豊かにする授業の創造」として研究を進めている（広島大学附属東雲小学校・東雲中学校,2018）。本校特別支援学級は、『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を、キャリア教育の視点から、「自分らしい進路を考える力」とした。その力を育むために、今の自分を見つめたり将来の社会生活とのつながりを考えたりすることを通し、なりたい自分やなりたい自分になるためにはどうすればよいかを考え、表現し行動を促す授業を行っている。一人ひとりの生徒が、自分らしい進路、生き方を考え、自分の思いを語り、実現に向けて取り組もうとする力を育みたい。

2. 目的

これまでのキャリア教育の取組をもとに、他者とのかかわりを広げ増やすことで、さらに生徒が自分の見つめ方を深め、将来の社会生活の見方を広げることができる授業（自己理解・人間関係形成・キャリアプランニング能力を育む授業）を実践し、その効果を検証し、キャリア発達を促す授業の在り方を考察する。

3. 方法

(1) 対象

本校特別支援学級第2学年に属する生徒4名。4名とも知的障害を有する。生徒Aはダウン症で、療育手帳®判定を有する男子生徒である。自分の思いや考えを伝えることができる。他者からの質問に意欲的に答えようとするが、内容から逸れた事柄を付け足すことが多く、伝えたいことが周囲に理解されにくいことがある。見通しがもて、理解できると、肯定的な言動が表出する。生徒Bは水頭症を併せもち、療育手帳B判定を有する男子生徒である。見通しがもてることや理解できていることには意欲的に取り組み、自分の思いや考えを伝えることができる。他者からの助言を否定的に捉える傾向があり、落ち込んだり、助言者に攻撃的になったりすることがある。生徒Cは、ADHDとASDを併せもち、療育手帳B判定を有する女子生徒である。小学校6年間は通常学級に在籍していた。自分の思いや考えを表出するが、場面や内容によって積極的になったり消極的になったりする。生徒Dは、発達性協調運動障害を併せもち療育手帳B判定を有する女子生徒である。物事をじっくり考えいろいろな思いを抱いている。質問された場面で、すぐに発言することが難しいが、振り返りのワークシートや日記に、その時の考えや思いを具体的に書くことができる。

* 広島大学大学院人間社会科学研究科

Miyuki INOUE, Akihiko WAKAMATSU

A case study on classes promoting career development in special support class of junior high school :
Class practice that fosters self-understanding, relationship formation, and career planning ability
through self-examination and discussion

(2) キャリア教育に関する生活単元学習の単元間の関連性と本研究の授業実践の関係

① キャリア教育に関する生活単元学習の単元間の関連性

今年度のキャリア教育に関する生活単元学習の単元を実施するにあたり、新型コロナウイルス感染症対策をとるため、実施方法や内容を変更することになったが、関連性は変わらない。図1に、単元間の関連性と単元名・指導形態・指導内容・指導目標を示す。

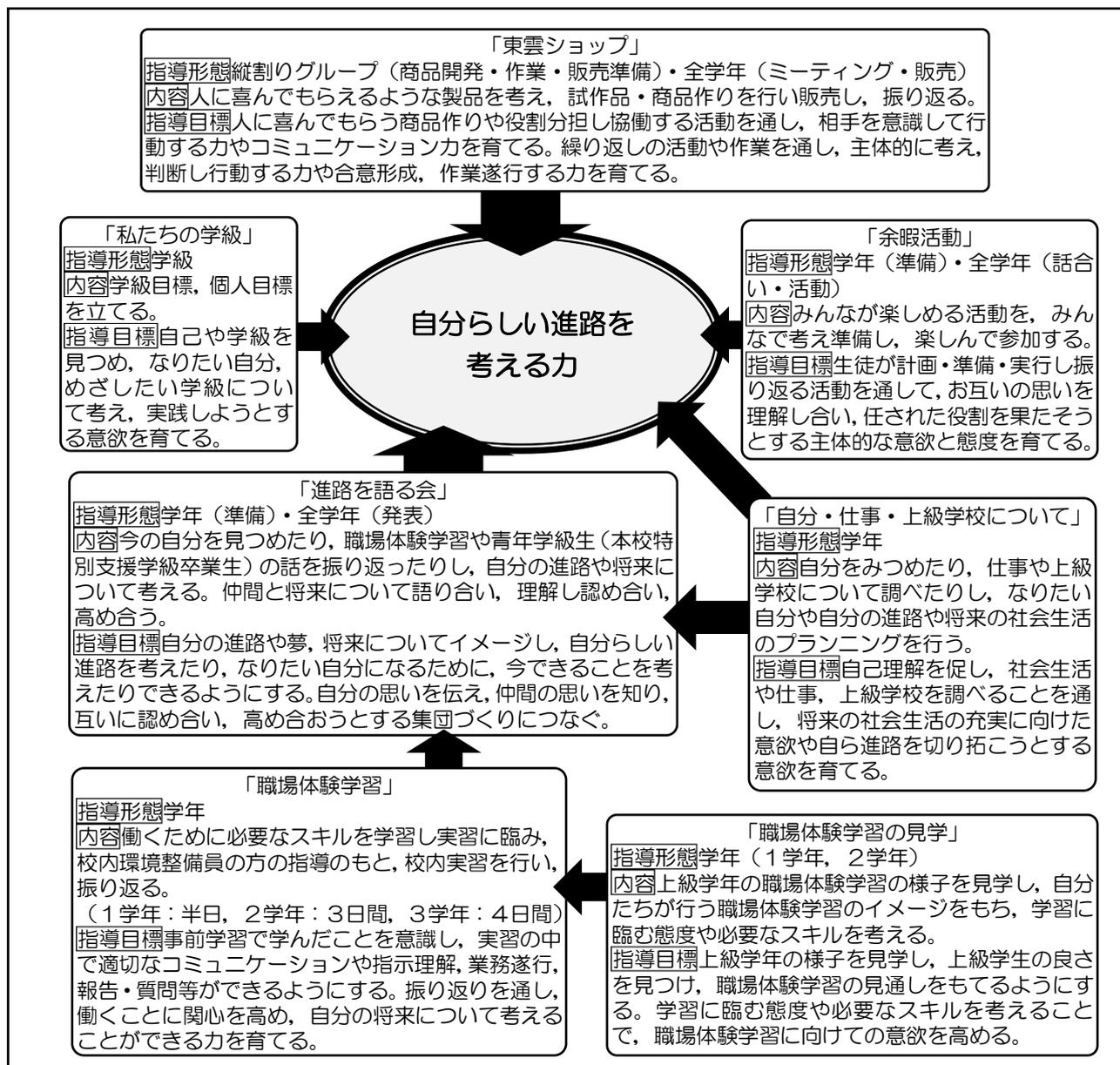


図1. キャリア教育に関する生活単元学習の単元間の関連性

② これまでのキャリア教育の実践と本研究の授業実践の関係

本研究の授業実践「もっと進路を語る会」は、図1の単元「進路を語る会」を発展させ、他者とのかわりを広げ増やすことで、より深く自分を見つめ、自分の進路や将来について考えるようになることをねらった。

「進路を語る会」では、自分の進路や将来について考えたことを語り合う。発表する内容には、次の3つを入れるようにした。

- i) 青年学級生の話や職場体験学習を通しわかったこと
- ii) 自分の将来の進路・仕事・生活・夢について考えていること
- iii) なりたい自分になるために今できること

互いに発表し合うことで、仲間の思いを知り、関心をもち感想を伝え合ったり質問したりすることができた。また、質問に答えることで、新たな視点で、自分を見つめたり、考えを明確にしたりすることができた。しかし、全学年合同の授業のため、人数が多く、一人ひとりの発表に対し、じっくり語り合うことが難しかった。

そこで、「もっと進路を語る会」では、対象を2学年の生徒4名に絞り、語り合う相手を大学生6名と大学教員1名に設定した。生徒は、進路を語る会と同じ内容を発表し、大学生と大学教員からの新たな質問に答えることで、より深く自分の思いに向き合い、考えることができるようにした。また、生徒にとっては、同じ内容の発表となり、見通しをもち自信をもって発表でき、語り合う相手が初対面の人になることで発表意欲が高まったり、大学生の生活について知り将来の生活のイメージが広がったりすることが期待できる。また仲間の応答を聞き、仲間の思いをより知ることができる。

(3) 分析方法

自分の見つけ方の深まりや、将来の社会生活の見方の広がりを検証するために、「進路を語る会」と「もっと進路を語る会」での質疑応答の内容とワークシートの記述内容を比較する。

4. 結果

(1) 「進路を語る会」と「もっと進路を語る会」での質疑応答内容の比較

①発表後の質問に対し、答えた内容を表1に示す。

表1. 発表後の質問に答えた内容の比較

	「進路を語る会」仲間との質疑応答	「もっと進路を語る会」大学生・大学教員との質疑応答
生徒A	発表後の質問がなく、発表の仕方への感想があった。(はっきり大きな声で言っていた等)	(しんどい時もあると思うが、どうやって頑張るか) 部活で疲れるときもあるけど、テストで100点を取れるようにしたいです。 (どうして、カーブではなく、巨人球団の仕事がしたいのか) 僕は、巨人軍の方が好きなので、カーブと巨人軍は薩長同盟を結ぼうと思います。
生徒B	(友達をどうやって増やすのか) 友達と仲良くします。 (高校のキャリアの授業というのは、どんなことをするのか) ハッスルプロジェクトとか、お仕事についてです。 (高校で部活は何に入るか) それはまだわかりません。	(先輩の話から、会社のことを考えたと言ったが、どんなことを考えたか) 会社の時間とか、通勤方法とかです。 (あいさつやコミュニケーションを頑張ろうと思っているのはなぜか) あいさつやコミュニケーションができないときがあるので、たくさん人と話していきたいと思います。 (まだ将来の夢を考えていないと言ったが、友達の夢を聞いてどう思うか) 将来の夢、がんばって、いろいろあると思った。 (夢をもつことは、大事だと思うか) はい。自分も少しずつは考えているんですけど。バスの運転手と電車の車掌さんです。 (それはなぜか) 交通が好きなので。 (バスの運転手になるためにはどんなことが必要か) お客様が下りるときには、「ありがとうございました」を言うことと、行き方がわからないとき教えてあげること。土日に路面電車に乗って車掌さんを見てすごいなと思って勉強しています。
生徒C	(どうやって、恩返しするか) お金を稼いで、何か恩返ししたいです。 (将来、どうやって彼氏や彼女を家族にするか) まだわかりません。	(部活や行事を頑張りたいと言ったが具体的にどんなことを頑張りたいか) ダンス部です。行事は、まだわかりません。 (友達とけんかすることもあると思うが、どうやって仲直りしたらいいと思うか) 自分から謝って仲直りします。 (パティシエになりたいと言っていたが、今作れるお菓子はるか)

	(苦手な勉強はどういう風に頑張りたいか) 家で勉強して…	作ったことはありません。(友達から助言があり,) 校外学習でシフォンケーキをチョコレートでデコレーションしました。 (パティシエになるために, どんな勉強が必要だと思うか) うーん…パティシエの本を見て勉強します。 (教えてもらえそうな人がいるか/専門学校があることを知っているか/そこへ行ったことはあるか) いません/はい/ないです。
生徒D	(どんな犬を飼ってみたいか) トイプードルを飼ってみたいです。	(保育士になりたいと思ったきっかけは何か) おじいちゃんが保育士とか学校の先生をやってて, いろいろ教えてもらってなりたいと思いました。 (好きな教科は何か/どんなところが好きか) (…しばらく考え) 国語です/漢字を書くところ。 (おじいちゃんから, どんなことを教えてもらったか) 勉強でわからないところ。 (おじいちゃんのような保育士になりたいか) (即答で) はい! (友達と暮らしたいのはなぜか) 一人だったら悲しいから (友達と暮らす練習は, どんなことをしたらいいか) …(考え続け, 何も言わない。) (暮らすためにはどのくらいかかると思うか) (…しばらく考え) わかりません。

②語り合う相手に質問した内容を表2に示す。

表2. 語り合う相手に質問した内容の比較

	「進路を語る会」	「もっと進路を語る会」
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> ・高校で部活は何に入りますか。 ・どうやって, 恩返ししますか。 ・将来, どうやって彼氏や彼女を家族にしますか。 ・ボランティアをする人になりますか。災害とかみんなを守るボランティアになりますか。 ・車を買ったら, どのくらいお金がかかりますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車の金額を教えてください。 ・プロ野球の中で一番好きな球団はどこですか。
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば, 学校の先生にはならないのですか。 ・みんなとは, 誰ですか。(みんなを高級車に乗せたいと答えたことに対し, 詳しく聞いた質問) 	(質問するよう促したが, 恥ずかしがり, 質問しなかった。)
生徒C	友達をどうやって増やすのですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・高校時代は何部でしたか ・(中国人の大学生がいることを知り) 中国語はしゃべれますか。
生徒D	(高校の) キャリアの授業というのは, どんなことをするのですか。	・家賃はいくらですか。

(2) ワークシートの記述内容の比較

①「進路を語る会」の目標に対する自己評価を3段階(とてもできた, できた, あまりできなかった)とした。4名の生徒の自己評価を表3に示す。

表3. 「進路を語る会」の目標に対する自己評価

「進路を語る会」の目標	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D
①自分の思いを、仲間をしっかり伝えることができましたか。	とてもできた	とてもできた	とてもできた	できた
②仲間の思いをしっかり聞いて、自分の思いと比べてみることができましたか。	とてもできた	とてもできた	とてもできた	あまりできなかった

②「もっと進路を語る会」の目標に対する自己評価を3段階（とてもできた、できた、あまりできなかった）とした。4名の生徒の自己評価を表4に示す。

表4. 「もっと進路を語る会」の目標に対する自己評価

「もっと進路を語る会」の目標	生徒A	生徒B	生徒C	生徒D
①自分の思いを、大学生と仲間をしっかり伝えることができましたか。	とてもできた	とてもできた	とてもできた	できた
②大学生からの質問を、よく考えてから答えることができましたか。	とてもできた	できた	できた	できた
③仲間と大学生の思いをしっかり聞いて、自分の思いと比べてみることができましたか。	とてもできた	できた	できた	あまりできなかった

③仲間の発表（思い）や質疑応答を聞き、共感したり、違いを感じたりし、互いの考え方を認め合い、自分の進路についての考え方を広げるために、仲間の思いについてわかったことを記述するようにした。「進路を語る会」と「もっと進路を語る会」での記述内容を比較する（表5）。

表5. 仲間の発表・質疑応答を聞いてわかったこと

	「進路を語る会」 仲間の思いを聞いてわかったこと	「もっと進路を語る会」 仲間の思いを聞いてもっとわかったこと
生徒	B：高等部の部活で卓球部か陸上部。 C：どうやって恩返ししますか。将来、彼氏を家族にしたいですか。 A D：どんなに夜になっても仕事しますか。 ※わかったことではなく、仲間に質問したいことを書いている。	B：記述なし C：記述なし D：言葉遣いに気を付けたい。ペット（犬）。保育士。人に詳しく教える。国語漢字をもっと書きたい。10万円のお金でやる。
生徒B	A：大きい声で言っていた。間違えてもがっくりしなかった。 C：大きな声で言っていた。はっきりゆっくり言っていたよ。 D：はっきりゆっくり言っていたよ。	A：部活も疲れる時もある。勉強は、100点めずらしい。 C：わかりやすく説明できていた。 D：わかりやすい説明で、聞き方が上手だった。
生徒C	A：将来の夢をちゃんと自分で思っているの、すごい。 B：Bくんなら、友達出来ると信じている。優しいから。発表がわかりやすかった。	A：部活や勉強も大事で大変だけど、頑張ろうと思っていることがすごい。 B：コミュニケーションが難しいけど、努力することが大事。将来の夢が決められるといいね。

	D：敬語が苦手なのに頑張ろうというのがすごい。	D：妹の世話をしているの？優しい。保育士は面倒を見ないといけないからストレス。
生徒D	A：友達と頑張っって協力をする。 B：キャリアの授業がある。 C：漢字が得意。	A：きちんとどういう風に、野球のことを考えているかわかりました。 B：バスの運転手になるために、どんなことが大事だということがわかりました。 C：パティシエになるために、どういう風にするのかわかりました。

④「進路を語る会」と「もっと進路を語る会」後の感想を比較する（表6）。

表6. 「進路を語る会」と「もっと進路を語る会」後の感想

	「進路を語る会」	「もっと進路を語る会」
生徒A	お互い一人ずつ発表原稿を見て言えた。最後まで頑張った。みなさん本当にお疲れさまでした。	中国語を詳しく教えてくれてありがとう。どんなにしんどくても、やりきることが大事だと思います。巨人軍だったらお金がたくさん。お金貯めたら、時々ご飯代もはらったりできるし、頑張る。
生徒B	みんなが進路のことを考えることができました。	初めての人となったので、緊張したけど頑張った。
生徒C	人のために、仕事をして働くことがわかった。	初めて会った大学生に自分の進路を発表するのに、緊張したけど、最後までやり切れた。難しい質問をされて困ったけど、ちゃんと答えられてよかった。パティシエになるために、パティシエのことを猛勉強する。したい。パティシエになったら、お客様を笑顔にする。
生徒D	みんな違う人がいることがわかりました。将来のことを考えるのは早いけど、難しいこともある。	中国語がちょっとでもわかったのでよかったです。一人暮らしでかかるお金が2万5千円だとわかりました。家を買うお金が4万3千円ぐらいだとわかりました。みんな恥ずかしかったけど、がんばったね。

⑤「もっと進路を語る会」後、再度、大学生や大学教員からの質問について、生徒が改めて考え記述した内容を表7に示す。質問は、自己を見つめ、他者とのかかわり方や将来の生活を考えることができる内容（㉗㉘㉙）を抽出した。

表7. 「もっと進路を語る会」後、再度、質問について考え記述した内容

質問	㉗今日はしんどいと思う日もあると思うけれど、どうがんばりますか？ ㉘あいさつ、コミュニケーションを頑張りたいのはなぜですか？ ㉙友達と暮らしたいのはなぜですか？
生徒A	㉗自分だったら、やりきるしかない。朝昼夜まで働くしかない。 ㉘コミュニケーションは大事だし、人一倍食ったり寝たりしないこと。 ㉙東京に住みたい。家族と。家族がいないと悲しいし、東京ドームで人一倍自主練もっとしたいと思う。夜だったら、野球の試合もできる。
生徒B	㉗今の場合は、休憩をとる。相談にのってもらおう。 ㉘話すときに大切だから。あいさつをしたら、相手も気持ち良くなる。 ㉙家族暮らしがいい。理由は楽しいから。
生徒C	㉗積極的に「次は何をしたらいいですか？」と聞いて、仕事を次々と取り組む。そうしたら、みんなが休む時間に自分が仕事を次々とやりきったら、後に自分が休憩できるから。 ㉘仕事場に行って、あいさつやコミュニケーションをすると、「この人は、あいさつするからいい人だな。」と相手が思ってくれるかも。

	⑥彼氏や友達と暮らしたい。理由は、一人暮らしだと夜が怖いから。それに、家事や子育てが不安だから。二人とかだと、いっしょに協力して暮らせるから。
生徒D	⑦勇気を出して学校に行く。今日は楽しいと思って学校に行く。 ⑧あいさつをしなかったら、返事とかがなかったら、わかっているのか、わかっているのか、相手が困ってしまう。 ⑨友達と暮らしたい。理由は、友達と暮らしたら楽しいことが多くなるし、一人だったらさみしいし、友達といたら安心するし友達がいたらもりあがったりするし、4人ぐらいだったら、協力していろんなことができるし、一人だったら忙しいし、4人ぐらいで買い物をしたりして担当を決めたりできるからです。自然が多いところに住みたい。

5. 考察

結果から研究目的について検証し、効果的内容に下線を引き、課題的内容に二重下線を引き、キャリア発達を促す授業の在り方を考察する。

(1) 他者とのかかわりを広げ増やすことによる自分の見つけ方の深まり(自己理解能力)について表1で示した質疑応答の内容から、自分の見つけ方の深まりについて検証する。

生徒Aは、「進路を語る会」では他者から質問が出なかったが、高校では部活や勉強だけでなく、係の仕事も頑張りたい、さぼらないようにしたい、将来は東京で巨人軍の球団の仕事がしたい等、自分の思いをしっかり伝えることができた。「もっと進路を語る会」では2つの質問に答えた。即答していたが、質問意図から逸れたり、具体性に欠けたりする内容であった。答える意欲は高いが、質問の意味理解に困難さがあったことが推測される。質疑応答による自分の見つけ方の深まりは見られなかったが、発表を繰り返すことで、自分の思いをより明確にし、堂々と自分の思いを発表することができていた。

生徒Bは、「進路を語る会」では3つの質問、「もっと進路を語る会」では6つの質問に答えた。どの質問に対してもよく考え、正直に丁寧に答えていた。自分の発表の中で「まだ将来の夢を考えていません。」と表現していたが、「もっと進路を語る会」で、夢について質疑応答を繰り返すうち「自分も少しずつは考えています」と伝え、バスの運転手や電車の車掌さんなど、具体的な職種を挙げることができた。質問に答えながら対話することで、より深く自分の思いと向き合い表現することができたのではないかと考えられる。

生徒Cは、「進路を語る会」では3つの質問、「もっと進路を語る会」では5つの質問に答えた。質問意図が理解できた時は即答し、「はい」や「わかりません」など端的な言葉を使うことが多かった。「どうやって」や「どんな」など、オープンな質問に対しては、「うーん」とじっくり考え答えていた。「もっと進路を語る会」では初対面の大学生や大学教員との質疑応答に緊張しつつも、質問に答えようとする意欲が見られた。いろいろな質問に戸惑いながら新たな視点で自分を見つめ、答えることができていた。

生徒Dは、「進路を語る会」では1つの質問、「もっと進路を語る会」では7つの質問に答えた。「もっと進路を語る会」では、将来保育士になりたい、友だちと暮らしたいという思いについての質問が多く、真剣に考え答えていた。保育士になりたいと思うきっかけを問われ、祖父の影響があることを明確に答えていた。また、生活費にどのくらいかかるかの質問には、よく考えて「わかりません」と答えたが、大学生の生活費を聞き、金額に関心をもち、ワークシートに記録していた(表6)。質問されることで自分の思いを明確にしたり、新しい知識を得ることで、関心を広げたりすることができていた。

表3、表4で示した自己評価項目「自分の思いを語り合う相手にしっかり伝えられたか」については、「進路を語る会」「もっと進路を語る会」での変化は見られなかった(生徒A・生徒B・生徒Cは「とてもできた」、生徒Dは「できた」)。自分の思いを込めた発表内容のため、自信をもち伝えられていたと考えられる。「もっと進路を語る会」の自己評価項目に、「大学生からの質問を、よく考えてから答えることができましたか。」を追加した。生徒Aは「とてもできた」、生徒B・生徒C・生徒Dは「できた」と自己評価した。初対面の相手の質問を聞き、自分なりに考え答えようとした姿と一致し

ている。新たな視点で自分の考えを深められたことが推測できる。

表6で示した「進路を語る会」と「もっと進路を語る会」後の感想を比較すると、生徒Cは、「進路を語る会」の感想では「人のために、仕事をして働くことがわかった。」と記述し、「もっと進路を語る会」の感想では記述内容が増え、大学教員からパティシエになるための方法を例示されたことで、「パティシエになるために、猛勉強する。したい。パティシエになったら、お客様を笑顔にする。」と自分の思いを詳しく記述している。他者とのかかわりを増やすことで、知識が増え、自分の思いや目標を明確に強くもつようになっていくことが読み取れる。

表7の「もっと進路を語る会」後、再度、㊦の質問について考えた記述では、生徒B・生徒C・生徒Dは、自分に合った自己調整方法を具体的に考えることができていた。生徒Aの記述は、社会参加への意欲が感じ取れた。時間や経験を経て、再度同じ質問を考えることは、考えを深めることにつながるということがわかる。

(2) 他者とのかかわりを広げ増やすことによる将来の社会生活の見方の広がり（人間関係形成・キャリアプランニング能力）について

表2で示した語り合う相手に質問した内容から、他者に関心を持ち、自分の考え方の広がりにつながっているかを検証する。

生徒Aは、「進路を語る会」、「もっと進路を語る会」で、他者の発表・発言を傾聴し、意欲的に質問できていた。質問内容は、他者の発表内容や自分の関心のあることについてであった。

生徒Bは、語り合う相手が中学生の場合、相手の発表内容に関心をもったことについて質問できたが、大学生の場合は、恥ずかしいと言いついて質問できなかった。しかし、何を質問したらいいのかわからなかったのではないかと考えられる。

生徒Cは、「進路を語る会」、「もっと進路を語る会」で、自分の関心のあることについて質問できていた。自分の発表の中で、「友達を増やして、気が合う友達をたくさん作りたい」と述べ、「進路を語る会」では、クラスメイトへ「友達をどうやって増やすのですか」と質問している。関心の高い内容は、他者の考え方と自分の考え方を比較しようとしていることが推察できる。

生徒Dは、「進路を語る会」、「もっと進路を語る会」で、他者の発表や発言を傾聴し、疑問に思ったことを質問し、わかったことを記録することができていた。他者とかかわることで、自ら知識を広げようとしていることにつながっていると考えられる。

表3、表4で示した自己評価項目「〇〇の思いをしっかりと聞いて、自分の思いと比べてみることができましたか。」について、生徒Aと生徒Dは、「進路を語る会」・「もっと進路を語る会」で自己評価に変化は見られなかった（生徒A「とてもできた」、生徒D「あまりできなかった」）。生徒Bと生徒Cは、「とてもできた」から「できた」に評価が下がっていた。生徒Dは「あまりできなかった」と自己評価しているが、他者評価（授業者）としては、他者の発表時の傾聴態度や質問・記述内容から高評価をしている。このズレの理由は、2つ考えられる。1つは、問いの表現「自分の思いと比べてみる」の意味がわかりづらく、比べる行為のイメージがもちにくかったからだと考えられる。もう1つは、自己肯定感の低さ（生徒Dは、初めてのことが苦手だったり、学校生活の中で「そんなに褒めなくてもいい」と伝えたりすることがある）によるものと考えられる。また生徒Aの自己評価はどちらも高いが、他者評価（授業者）としては、他者の思いを知ることはできたが比較には至っていないと評価している。このズレも「自分の思いと比べてみる」の意味がわかりづらいことに起因すると考えられる。生徒B・生徒Cの評価が下がった理由として、語り合う相手が変わることで、質疑応答のしやすさ、わかりやすさが影響していることが考えられる。

表5から、「進路を語る会」・「もっと進路を語る会」での「仲間の思いについてわかったこと」の記述内容を比較すると、仲間の同じ発表内容を聞いても、質疑応答の内容の違いによって、わかったことが異なり、増えていることがわかる。また生徒Cは、生徒Bに対して「Bくんなら、友達できると信じている。優しいから」「将来の夢が決められるといいね」や、生徒Dに対して「妹の世話をしているの？優しい。保育士は面倒を見ないといけなからストレス」と記述している。仲間を応援する気持ちや仲間の思いに寄り添う気持ちが表れている。生徒Bは、「進路を語る会」では、仲間の発表の仕方についての感想のみであったが、「もっと進路を語る会」では、発表内容についても記述していた。語り合いを増やすことで、互いの思いをより理解できることがわかる。

表6の「進路を語る会」・「もっと進路を語る会」後の感想の中で、生徒Dは、「進路を語る会」で、仲間の思いの違いに気付いたり、将来を考えるのは早く、難しいと記述したりしているが、「もっと進路を語る会」で大学生に家賃を質問し、わかったことを感想の中で記録している。将来について考えイメージしようとしていることがわかる。

表7の「もっと進路を語る会」後、再度、㊦の質問を考えた記述では、生徒B・生徒C・生徒Dは、あいさつ・コミュニケーションが大切な理由について、相手を意識した内容を挙げたりすることができていた。生徒Aは、家庭・学校生活の中で見聞きしている内容と関連付けて答えていた。再度、㊧の質問を考えた記述では、生徒A・生徒Bは、将来の生活は、家族と暮らしたいとより明確にし、その理由も述べていた。生徒Aは住みたい場所も挙げ、自分の夢と関連付けていた。生徒C・生徒Dは、友達との生活をイメージし、理由も述べている。

(3) キャリア発達を促す授業の在り方について

(1)(2)より、本研究授業の成果と課題をまとめ(表8)、キャリア発達を促す授業の在り方について考察する。

表8. 本研究授業の成果と課題

他者とのかかわりを広げ増やすことによる自分の見つけ方の深まり(自己理解能力)について	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語り合う相手を変え、自分の思いを伝える回数を増やすことで、自分の思いをより明確にし、堂々と伝えることができる。 ・質問されながら会話することで、より深く新たな視点で自分の思いと向きあったり、思いを明確にもったりすることができる。 ・オープンな質問は、思考を深める。 ・他者とのかかわりを増やすことは、新たな知識を得て関心を広げ、目標を明確にもつことにつながる。 ・時間や経験を経て、再度同じ質問(自分について)を考えることは、考えを深めることにつながる。 	<p>【課題】</p> <p>質問の意味理解に困難さがある場合、自己理解の深まりは見られない。個の実態に応じた教材や言葉の意味理解を促す支援が必要である。</p>
他者とのかかわりを広げ増やすことによる将来の社会生活の見方の広がり(人間関係形成・キャリアプランニング能力)について	
<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心の高い内容は、主体的に質問したり、他者の考え方や自分の考え方や比較したりしようとする事につながる。 ・語り合いを通し、互いの思いを知ることは、違いに気付いたり、自分の思いを深めたりでき、仲間の思いを理解し寄り添い、応援する気持ちを育む。 ・他者とかかわることは、知識を広げようとしたり、将来について考えイメージしようとしたりすることにつながる。 ・時間や経験を経て、再度同じ質問(人間関係・将来設計)を考えることは、より他者の思いや働く意義、役割を意識したり、行動を改善しようとしたりする思いを引き出す。 	<p>【課題】</p> <p>語り合う相手によって、質疑応答のしやすさ、わかりやすさに影響がある。語り合う相手の情報を事前に伝え関心を高めたり、話しやすい雰囲気を作ったりする支援が必要である。</p>

本研究は、これまでの本校キャリア教育の取組に、自分の思いを伝える機会と他者とのかかわりを広げる機会を増やした発展的授業である。成果で示したように、繰り返し伝えたり考えたりすることは、生徒の思いの深まりにつながり、また多様な他者と関わることは、自他の違いに気付いたり、他者の思いを応援したり、知識が増え考え方が広がったり、明確な目標がもてたりすることにつながる事が検証できた。

今後は、この成果を活用し、より単元間の関連性をもたせ、自分について、自分の将来について繰

井上美由紀・若松昭彦(2020),「中学校特別支援学級におけるキャリア発達を促す授業に関する一考察～自己を見つめ、語り合いを通し、自己理解・人間関係形成・キャリアプランニング能力を育む授業実践～」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」, 48-57.

り返し考え、自分らしい進路・生き方を見つけ、それに向かって前向きに取り組もうとする力を育みたい。そのために、個々の生徒の実態に応じた教材作りや言葉の意味理解を促す支援を行い、語り合う相手を検討しながら、その効果を量的・質的に検証していきたい。

謝辞：本研究授業を実践するにあたり、多大なる御協力をいただいた広島大学大学院人間社会科学研究科竹林地毅先生ならびに授業に参加いただいた大学生の方々へ、深く感謝申し上げます。

【引用・参考文献】

広島大学附属東雲小学校・東雲中学校,「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を育むための学びを豊かにする授業の創造—教科等の独自性を生かした東雲がめざす授業の方向性—, 東雲教育研究会実施要項, 2018.

文部科学省・国立教育政策研究所・生徒指導研究センター, キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書, 2011.

文部科学省・国立教育政策研究所・生徒指導・進路指導研究センター, 「語る」「語らせる」「語り合わせる」で変える! キャリア教育—個々のキャリア発達を踏まえた“教師”の働きかけ—「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレット), 2016.

文部科学省・国立教育政策研究所・教育課程研究センター, みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動, 小学校編, 2018.

文部科学省, 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説, 特別活動編, 2017.

文部科学省, 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説, 総則編(幼稚部・小学部・中学部), 2018.